

■梅津政景 秋田藩主のもと、実力で頭角を現し、藩政確立の実務に敏腕を振るい、貴重な日記を残した。

うめづまさかげ

パリヤーノ謁見 1581= 下野国宇都宮で、宇都宮氏の老臣に仕える梅津道金の四男に生まれる。

本能寺の変・1582= 1歳：

幼時、父に従って常陸国太田に入り、

秀吉全国統一1590= 9歳：

長じて佐竹氏の老臣人見氏に仕えた。

9つ上の次兄憲忠が佐竹義宣の童坊にとりたてられ、以後、近侍・右筆と出世する後を追うように、

義宣の同朋(茶坊主)となり、金阿弥と称する。

前田利家没・1599=18歳：

関ヶ原の戦い・1600=19歳：

東本願寺創建1602=21歳：義宣が出羽に転封されると、政景兄弟もそれに従って久保田(秋田)に入った。

阿国歌舞伎始1603=22歳：秋田藩主となった義宣の意を受けて、新参の家臣の進出に反感を持つ譜代門閥の代表格の河井忠遠を謀殺し、これが出世への契機となり、

家康駿府退隠1607=26歳：

.....1608=27歳：

島津琉球支配1609=28歳：\*開坑して間もない院内銀山に山奉行として赴任すると、短期間で出銀高を倍増させる手腕を発揮、

キリシタン禁止・1612=31歳：加増されて300石。院内銀山に帰任した時から、日記をつけ始め、

大坂冬の陣・1614=33歳：惣山奉行となり、以後、阿仁銀山ほか領内鉱山を統括。大坂冬の陣では一夜でその軍制を完了し、

大坂夏の陣・1615=34歳：夏の陣では従軍して勘定方を差配するなど、算用面においても能吏としての手腕を発揮し、召し出されて、勘定奉行も兼ねるに至る。

徳川家康没・1616=35歳：

吉原遊郭始・1617=36歳：

.....1618=37歳：家老向宣政が死去したのに続いて、

菱垣廻船始・1619=38歳：\*重臣大和田重清が死去すると、兄憲忠が藩政全般を、自らは財政を担当して、梅津政権状態となる。

檜山郡藤琴・比井野両村の農民を指導して、岩堰用水を開設した。

徳川家光將軍1623=42歳：

イパニヤ断交・1624=43歳：この年、小場宣忠が家老に就任して、梅津政権は一応終焉するも、

人身売買禁止1626=45歳：子に恵まれなかった義宣が弟の子岩城吉隆を養嗣子にした際、その傅役を命じられて、江戸に上り、

.....1628=47歳：\*兄憲忠に続いて、江戸詰の家老となり、

寛永禁書令・1630=48歳：兄憲忠が死去し、

糸割符拡大・1631=50歳：加増され、3000石の大名となる。

徳川秀忠没・1632=51歳：小場宣忠が死去すると、藩政の重責を一身に担うこととなったが、

鎖国令 I・1633=52歳：藩主義宣が死去すると、その葬儀をとりしきり、あとを追うように没した。

死の直前まで、21年間におよぶ日記を書き続け、成立期の藩政を知るうえで貴重な史料を遺した。武術だけではなく、文筆、算用、土木技術など多方面に優れた能力を持って、家柄などにかかわらずその力量で頭角を現したことから、時代を反映する新しいタイプの武士であったといえよう。